

竹ノ下弘久研究会募集要項 —社会階層論・計量社会学—

2025 年 11 月 17 日

1. ゼミの研究テーマと関連する授業の履修

本研究会では、担当教員である竹ノ下の専門領域である社会階層論を主たる領域に、研究会の活動を進めていく予定です。社会階層論では、人々が現代社会を生きていくために必要な社会的資源の不平等な配分のあり方に注目し、資源の不平等配分が生じる社会的メカニズムを考察します。また、階層や不平等の形成は、政治、経済、地域社会など非常に幅広い社会的領域の中で生じます。

2026 年度の研究会の主な活動は、格差・不平等問題を中心に、家族、教育、ジェンダー、労働・職業、地域社会などをテーマに、質問紙調査によって得られたデータを用いた統計分析と、統計分析結果にもとづくプレゼンテーション、ディスカッションを中心に行います。また、統計分析を適切に行うには、仮説構築やそのために必要な理論の学習が非常に重要です。研究会の中では、社会階層や不平等の理論の学習も行います。データは、2018 年度の研究会で、千葉県内の 2 つの市町村で実施した質問紙調査のデータや、ミシガン大学や東京大学のデータ・アーカイブなどで学部学生にも広く公開されているミクロデータを、授業内で使用します。統計分析を行うために、授業では何らかの統計分析ソフトを用います (SPSS, stata, R のいずれか)。研究会の時間だけでは、統計学の学習のすべてをカバーできないので、竹ノ下研究会に所属する学生には、三田キャンパスで開講されている統計学や統計情報処理関連の科目の履修を強く推奨しています。

夏期休暇中に夏合宿を行っています。合宿では 4 年生の卒論中間発表、大学院生の研究発表、3 年生の三田祭報告に向けた準備と中間発表を行いました。留学等で参加できない人を除き、これらのイベントへの参加を必須とします。

2. 授業の進め方

研究会に参加するみなさんの関心をふまえ、グループ分けを行います。各グループは、格差・不平等、教育、ジェンダー、家族、労働・雇用、福祉、社会関係資本、地域社会などのテーマから、いずれかのテーマを選択します。これらのテーマのいくつかについて、文献を購読します。文献購読には、対話型学習法 (Learning through Discussion: LTD) というアクティブ・ラーニングの手法を用います。LTD の詳細は、初回の授業時にあらためて説明します。また、授業の前半には、統計分析に必要な統計学についての学習と、統計ソフトを用いた分析の実習を行います。分析結果の中間報告を三田祭で行い、上智大学、早稲田大学と合同で行っているフィールドワークの成果報告会 (例年、11 月の金曜日の夕方) でも報告します。これら 2 つの成果報告は、3 年生の研究会の単位認定の重要な要件となっています。研究会全体で行っている共通課題の遂行と並行して、個人研究報告も随時行います。三田祭後は、個人研究を行います。

授業は、2 学年合同で行うため、4 年生対象の研究会にも出席することが求められます。2026 年度の授業は、月曜日の 3 限と 4 限に行う予定です。4 月から 5 月は、主に研究の進め方や統計分析のやり方を担当教員が説明しますが、6 月以降はひたすら、グループでの分析作業や論文執筆、報告作成が中心となります。毎回の授業に休まず参加する学生に来ていただきたいです。3 分の 1 以上休んだ学生は、単位を認定できない可能性が高いです。

3. 入ゼミ課題・選抜方法

(1) **2026年1月12日(月)午後11時59分59秒までに**、以下の URL に必要事項を記入して、送信してください。

<https://forms.gle/sTFoaDF1B7BujAwq7>

こちらのグーグルフォームに記入するには、keio.jp アカウントによる認証が必要ですのでご注意ください。

- ・氏名、学部学科、学年、学籍番号、メールアドレスなど
- ・志望理由と研究関心

所属、氏名、メールアドレスを明記のうえ、志望理由(400字以下)、竹ノ下研究会の中で行いたい研究テーマ・研究課題(3000字以上)について論じてください。

研究課題の中では、問題の背景として、自分が関心を持つ研究課題が、なぜ、どのような点で重要なのか、研究課題の意義について論じてください。その後、自分が設定した研究課題、研究目的と関連する先行研究を最低3つ以上取り上げ、それらを比較してください。それらを比べた上で、自分はどのような点について研究を行うか論じてください。

・レポート課題

以下の2つの文献を読み、その内容を要約し、自分自身の意見を述べなさい。

課題文献1：西村純子・池田心豪編著『社会学で考えるライフ&キャリア』中央経済社

課題文献1については、全てを通読した上で、その中から2つの章を取り上げ、その内容をまとめて自分の考えについて論じなさい。(合計で1500から2000字程度)。

課題文献2：Lareau, Annette. Unequal Childhoods: Class, Race and Family Life. in David Grusky (ed). Social Stratification. 4th edition. Routledge.

この課題文献は、以下のリンクからダウンロードしてください。

<https://drive.google.com/file/d/1z6gqXXuQ3k9rmzh2Tsi5Qnr1Wlk3XWQA/view?usp=sharing>

(このリンクにアクセスするには、keio.jp 認証が必要です)

前半で著者の議論を要約し、後半で著者の議論について論評してください(合計で1000字程度)

- ・成績証明書をスキャンしたファイル(書類の中に、学籍番号と氏名が明記されていること)

グーグルフォームからアップロードして提出してください。

本研究会では、3年時に、先行研究の検討と仮説構築、計量分析を中心に、量的データを用いた研究の進め方について一通り学習することを重視します。4年時には、社会階層論を中心とした様々な理論について、日本語と英語文献を用いた文献購読を中心に行い、階層研究についての国内外の最新の研究動向を理解し、実証研究のための研究課題について考察を深めます。4年時に卒業論文の執筆を希望する方については、卒業論文を中心に授業内で研究報告を行います。

今回提出していただく研究関心の部分では、どのようなテーマをどのように論じるか、最低3点以上の文献を参考にし、それらを比較しながら論じてください。竹ノ下研究会で扱うテーマは、不平等研究や社会階層論に近いものが望ましいですが、広く社会学全般についても対応可能です。階層論は、家族、学校教育、労働市場という3つの社会的領域の中で不平等が生じるメカニズムに注目します。また、ジェンダーや人種・エスニシティも不平等が形成される重要な要素です。地域間の不平等や国際比較、不平等と関わる社会保障政策や福祉政策も、階層論の守備範囲です。地域の間人関係やソーシャル・キャピタルからも、不平等を考えることができます。担当教員は、

統計データを用いて研究を進めていますが、質的調査を用いて卒業論文を執筆していただいてもいいです。とはいえ、何らかの社会調査データや資料に依拠して研究を進めていただくことを担当教員としては希望します。

質問や問い合わせのある方は、以下のアドレスまでお願いします。

thiro0406[at]keio.jp [at]を@に変えて送信

4. 統一選考について

Google Form に入力し、成績証明書のファイルを提出した方についてのみ、1月17日（土）の統一選考日に選考します。詳細は、入ゼミ課題を提出した方に別途ご連絡差し上げます。面接には、普段と同様の服装でお越しください。選考結果は、遅くとも1月21日までにはメールにてお知らせします。